



企業の源流保全の取り組みについて

(小菅村との協働事例)

2026年2月19日

大成建設株式会社 クリーンエネルギー・環境事業推進本部 自然共生技術部 自然共生推進室

森 剛平

協定の概要と目的

1.概要

2.目的



1.概要

関係者

山梨県北都留郡小菅村、NPO法人多摩源流こすげ、大成建設株式会社

目的

源流域における森林課題の解決とグリーンインフラとしての機能向上の実現
→グリーンインフラ推進構想「Kosuge-Model」の創出に向けた取り組み

協力事項

多摩川源流域にある小菅村内の森林資源の利活用と、森林をはじめとした環境資源保全・再生についての検討および実証することを相互に協力して実施

1.概要

期間

2024年4月 ～ 2031年3月（7年間）

関係者の役割

小菅村

森林空間等のフィールド提供、源流ネットワークの他自治体への紹介

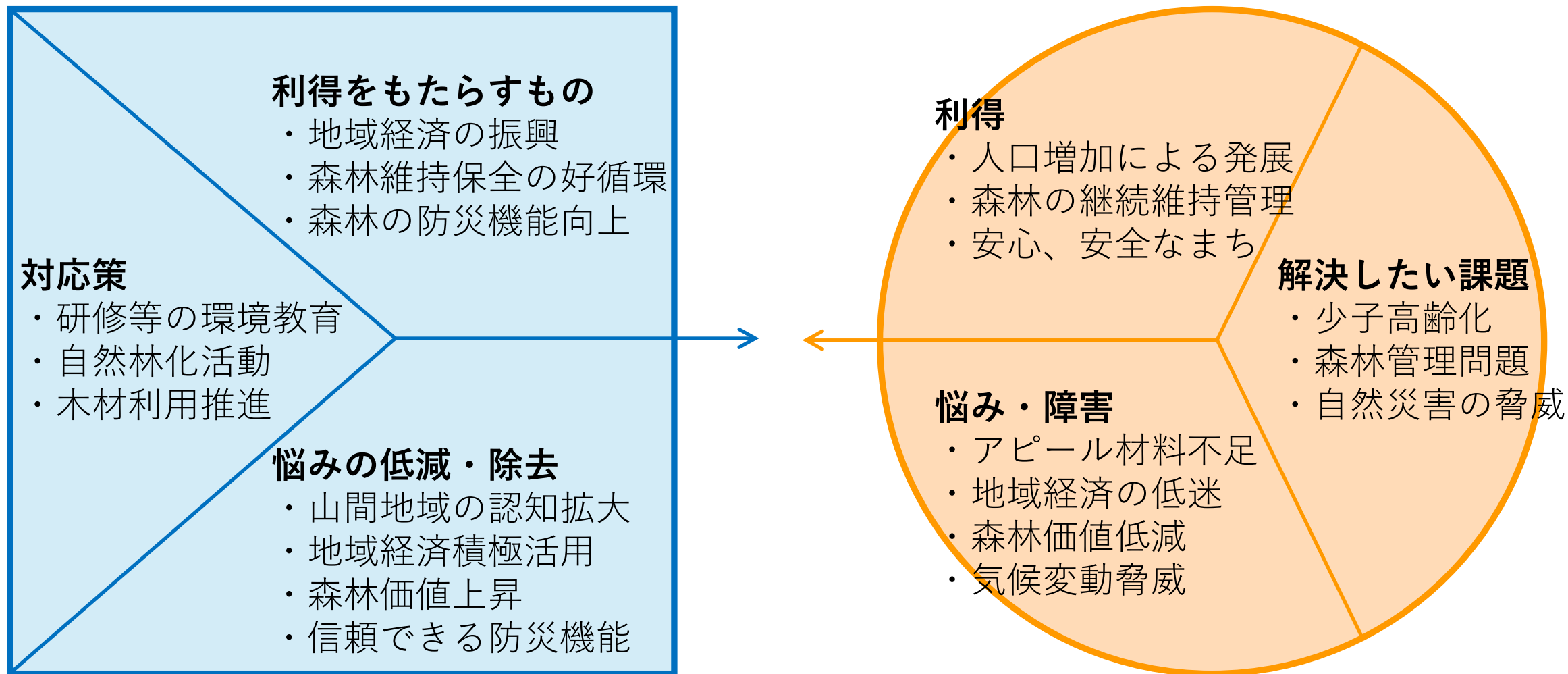
NPO法人多摩源流こすげ

活動にかかる知見の提供、村内外コミュニティ形成、事務局

大成建設(株)

展開方法の検討等、資金調達（補助金等の申請）

2.目的 – 課題の抽出と対応策の検討



2.目的 – 当社環境方針との整合

TAISEI Green Target 2050

持続可能な環境配慮型社会の実現



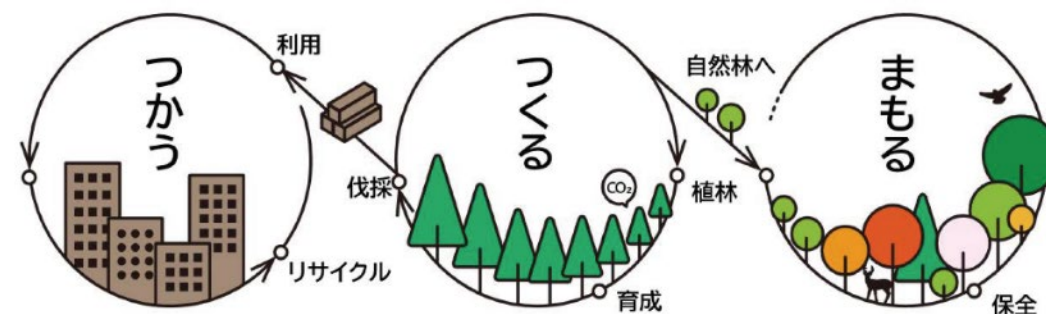
森林資源・森林環境

水資源・水環境

「環境法令の遵守」 「環境事故ゼロ」

【森林資源・環境】

- 自然共生活動による正の影響増加
- 自然共生活動に伴う発生材の有効利用を推進
- 自然共生活動の適正な評価



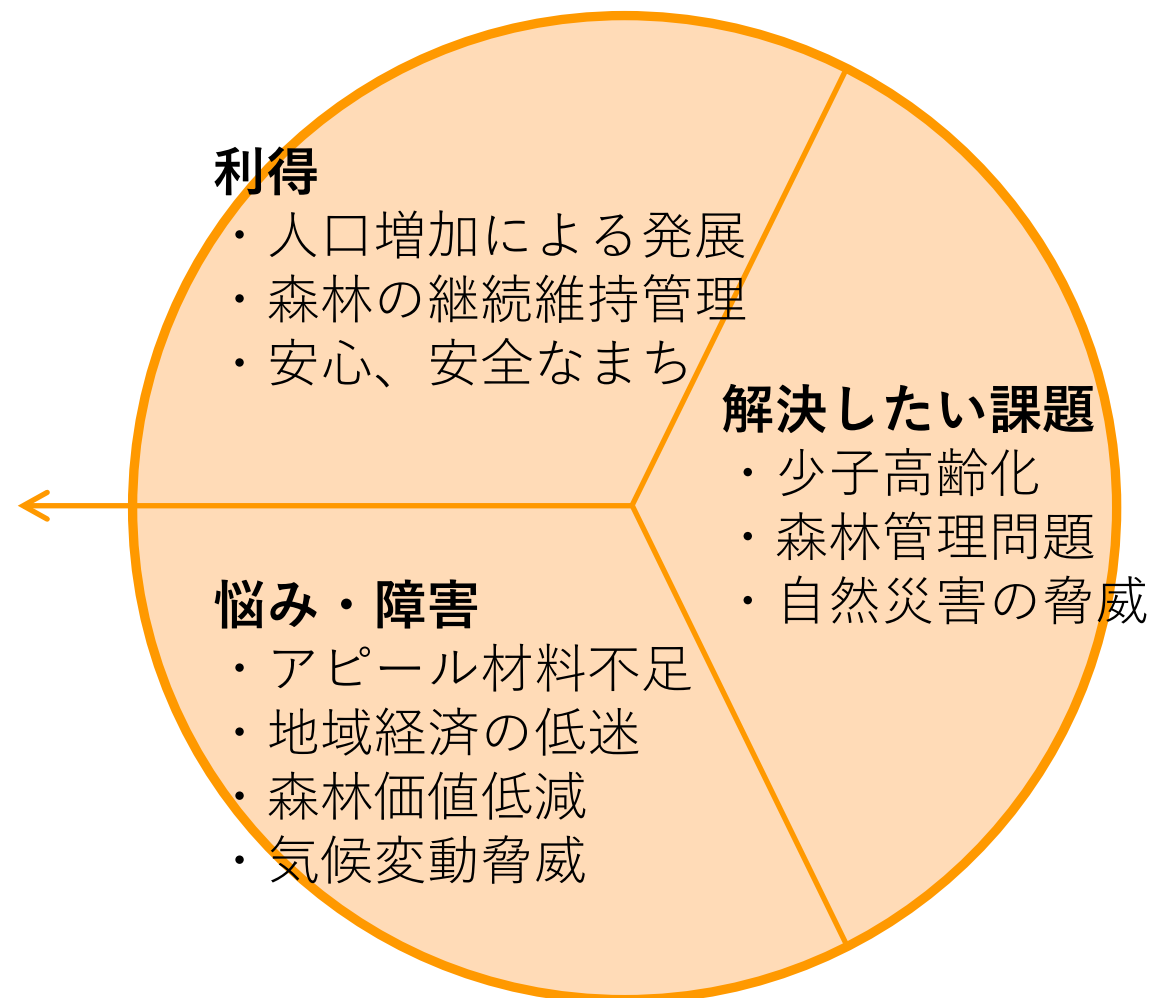
【水資源・環境】

- 自然共生活動により水環境を更新

2.目的 – Kosuge-Modelの具体化

Kosuge-Model

民間企業の事業活動を原動力として、源流域に広がる人工林を広葉樹中心の森へと再生し、森林が持つ多面的な機能を高めることで、**流域全体の防災・減災や生物多様性の回復**といった社会課題の解決を目指す構想

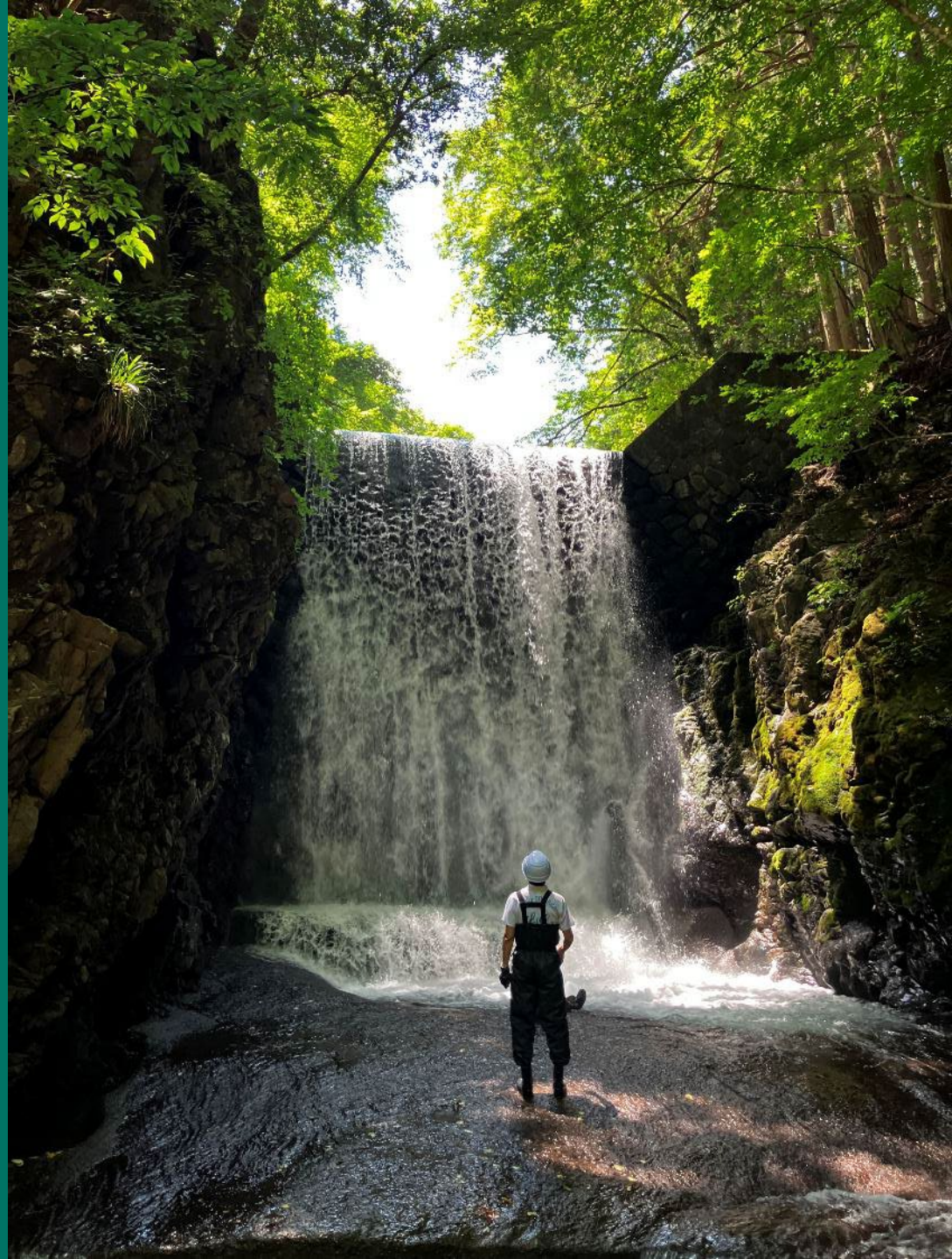


活動内容

1.つかう、つくる、まもる

2.研修

3.地域振興



活動内容 1 – つかう、つくる、まもる

・つかう

伐採

①村発注の伐採（主伐や間伐）

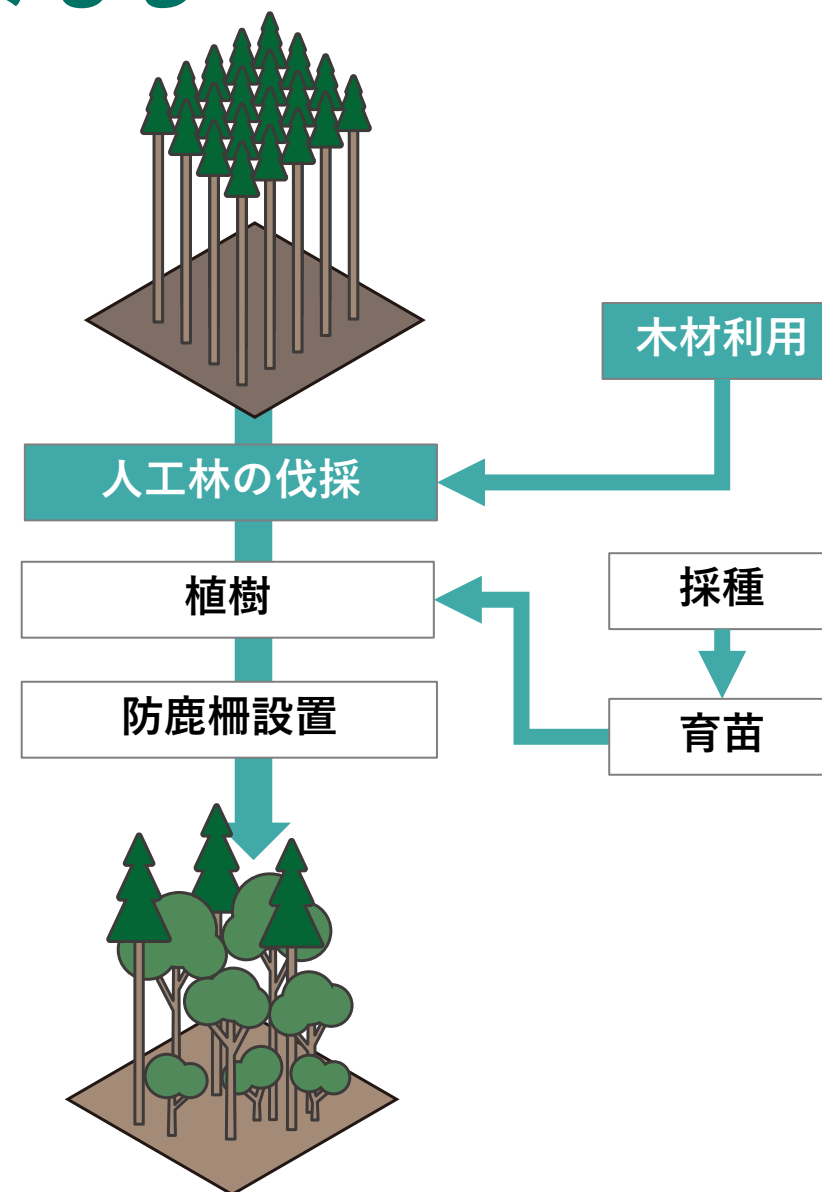
→日陰対策や村有林の間伐など

②森林経営計画での間伐

→補助金を得て伐採

③利用目的として伐採（主伐、間伐）

→補助金無し、企業等が費用を負担

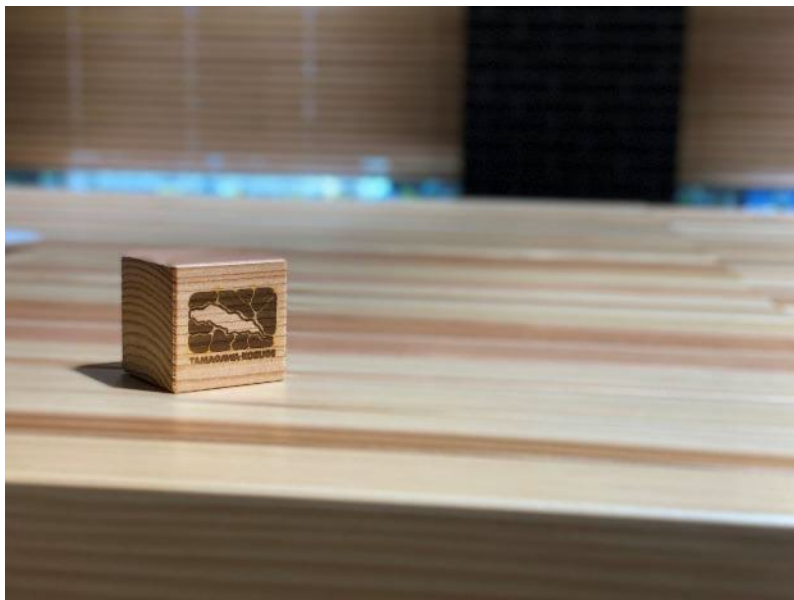


活動内容 1-つかう、つくる、まもる

・つかう

社内PJでの小菅村産材利用

- 新宿センタービル
6階食堂リノベーション



SCB6階食堂 モニュメント



SCB6階食堂 カウンターテーブル等

活動内容 1-つかう、つくる、まもる

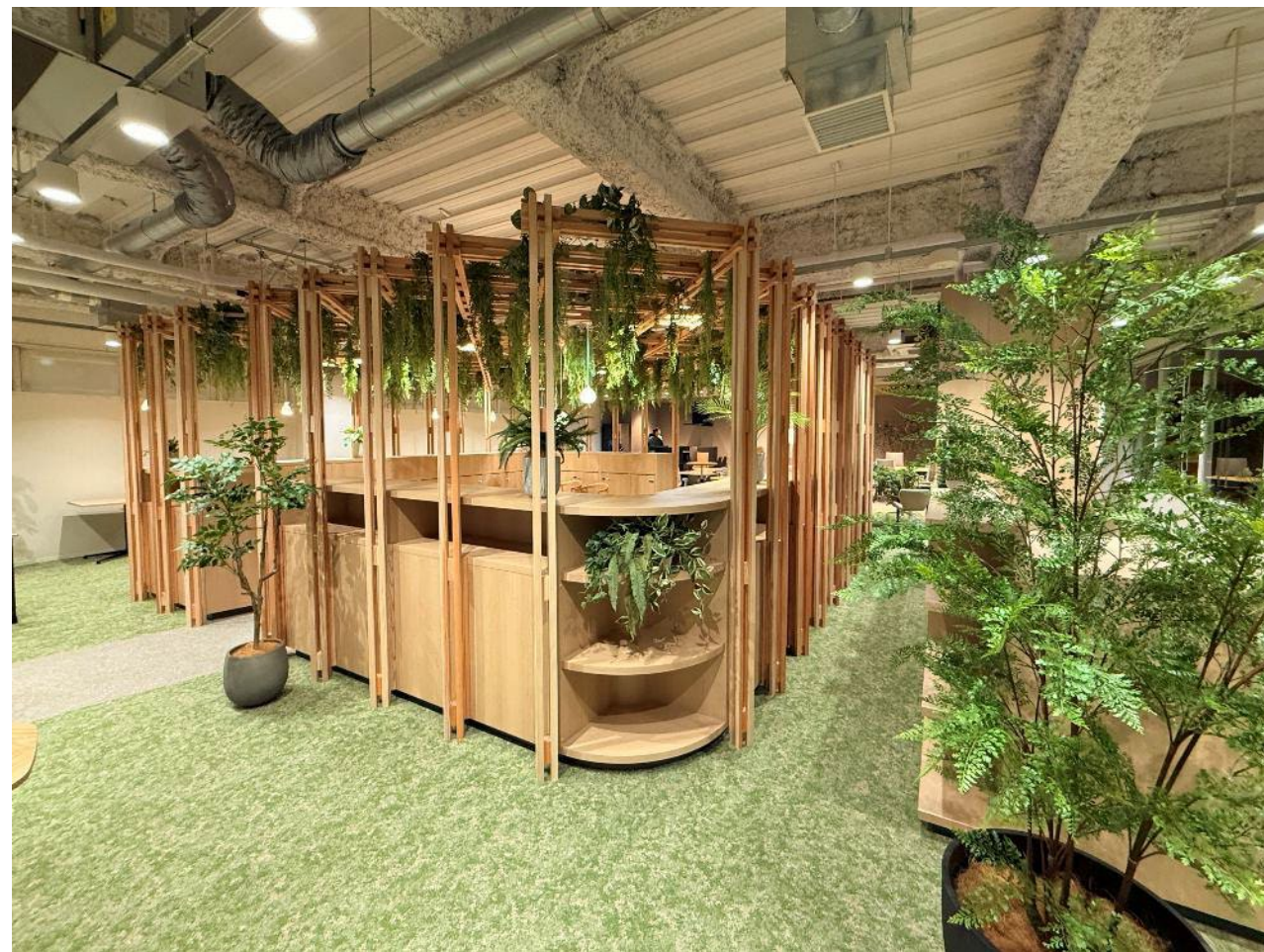
・つかう

社内PJでの小菅村産材利用

- 山梨CSセンター
リノベーション



山梨CSセンター エントランス



山梨CSセンター 執務室

活動内容 1-つかう、つくる、まもる

・つくる

多様性（遺伝的・種・生態系）に配慮

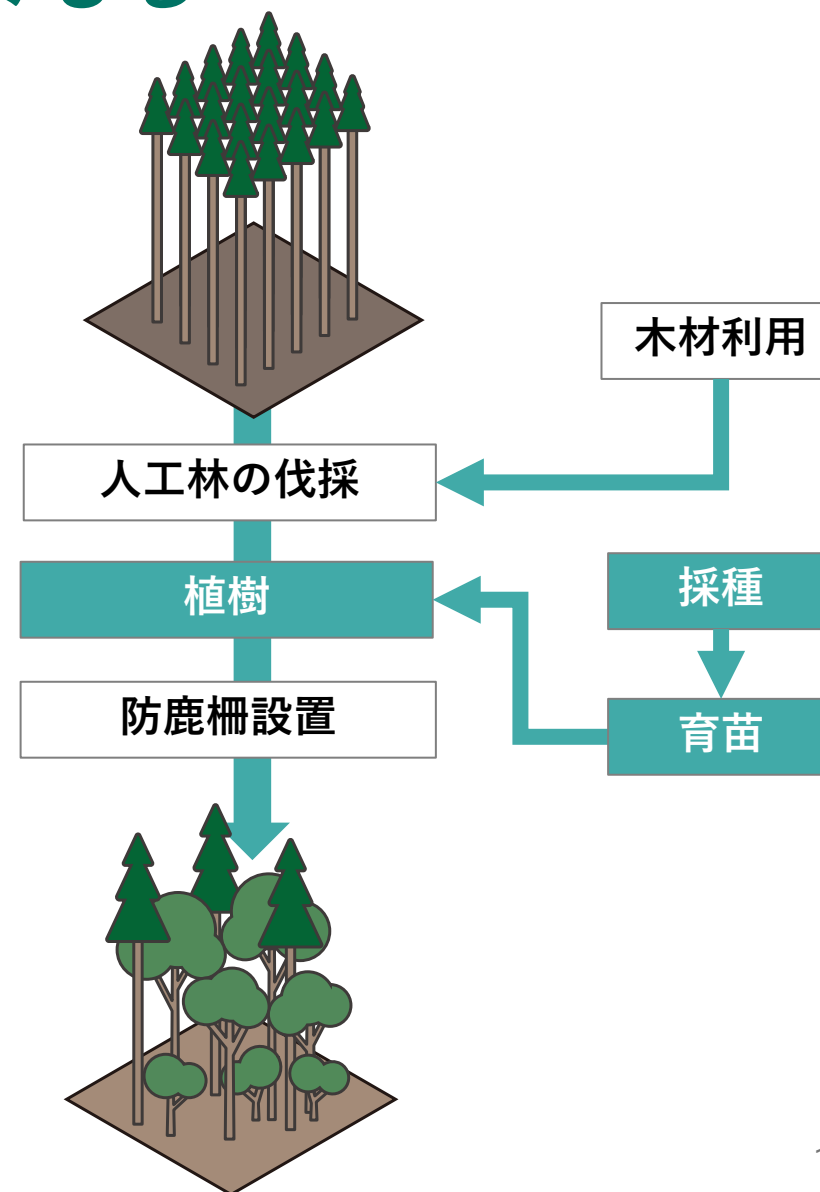
① 地域性種苗の採種

→遺伝性に配慮し、村内の森から採種

② 育苗

→NPO法人多摩源流こすげによる育苗

③ 植樹

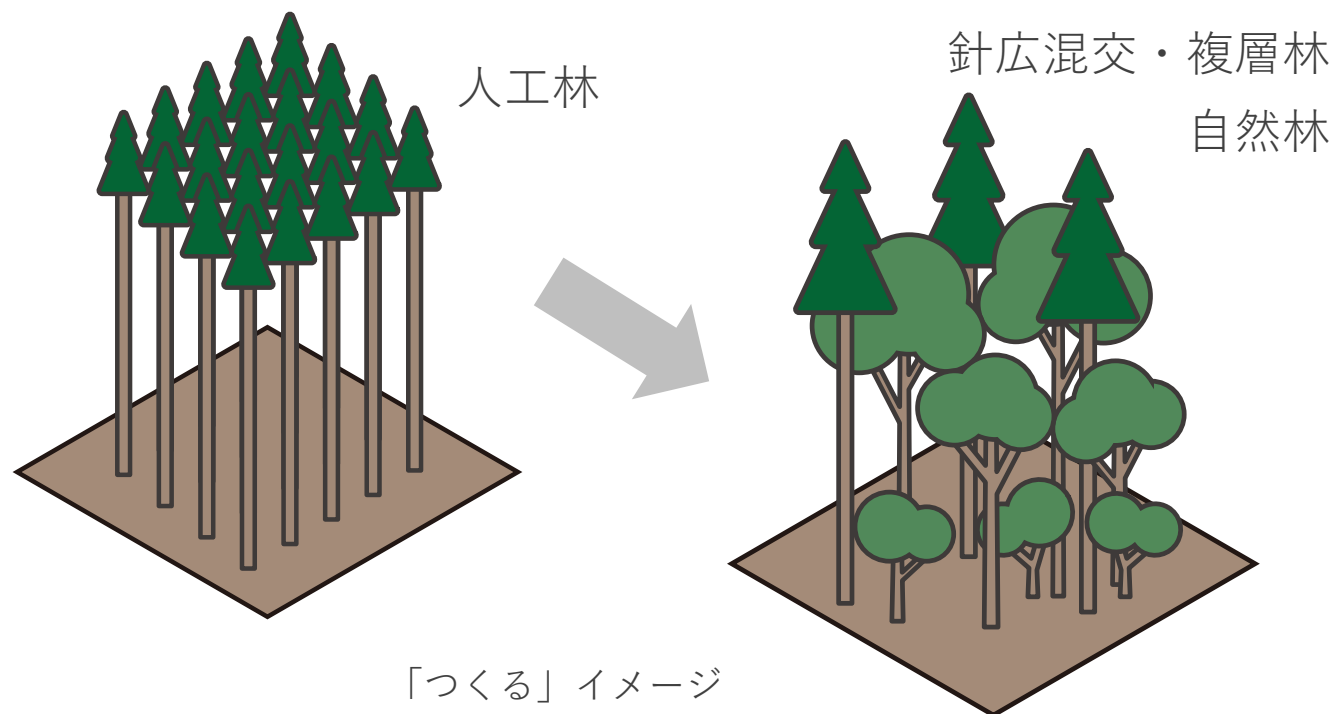


活動内容 1-つかう、つくる、まもる

・つくる

スギ、ヒノキ中心の単層林から、
針広混交・複層林化、自然林化を目指す

① 地域性種苗の採種



社員研修での採種

活動内容 1 - つかう、つくる、まもる

・ つくる

スギ、ヒノキ中心の単層林から、
針広混交・複層林化、自然林化の実施

② 育苗

③ 植樹



社員研修での苗作り



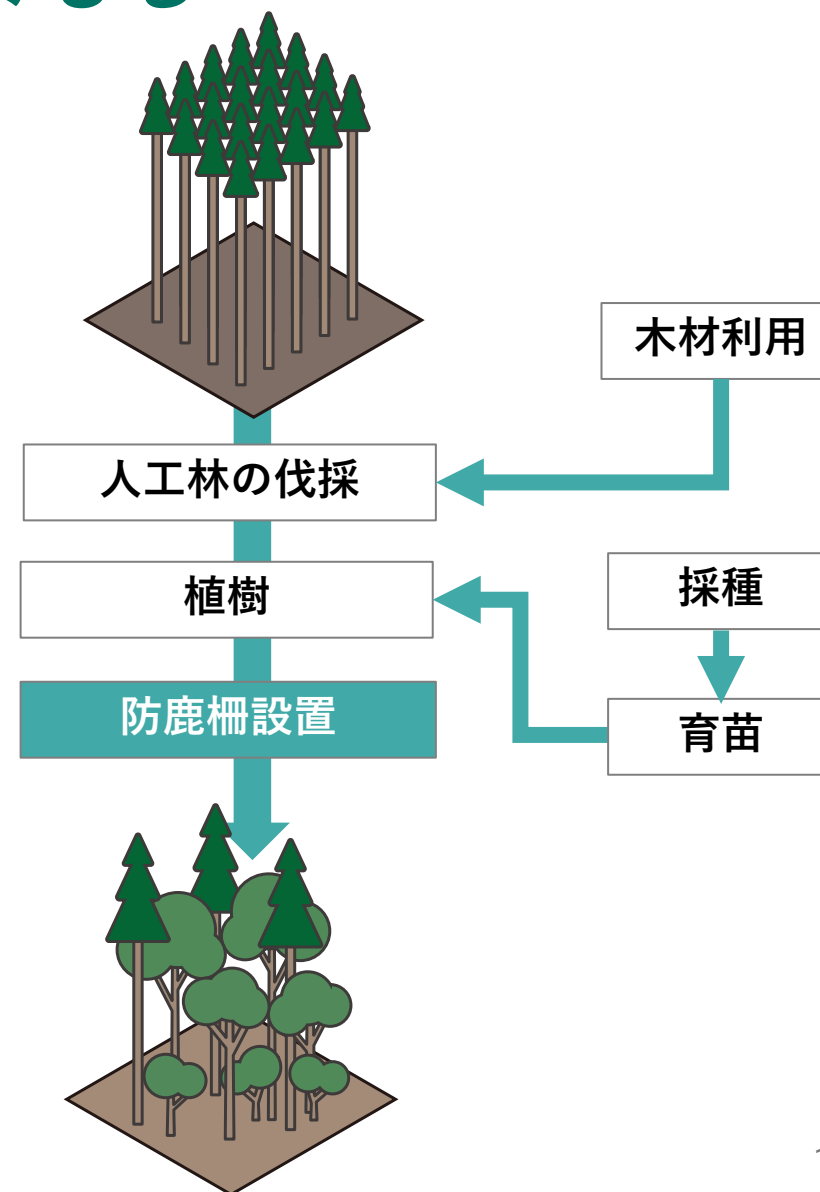
社員研修での植樹

活動内容 1 – つかう、つくる、まもる

・まもる

小菅村にも多くのシカが生息しており
食害対策が必要

- ① 防鹿柵の設置
- ② 社内研修時のジビエBBQ
- ③ 社内でジビエ食堂を開催（1回/年）



活動内容 1 – つかう、つくる、まもる

- まもる

小菅村にも多くのシカが生息しており
食害対策が必要

- ① 防鹿柵の設置



社員研修による鹿柵の設置

活動内容 1-つかう、つくる、まもる

・まもる

小菅村にも多くのシカが生息しており
食害対策が必要

- ② 社内研修時のジビエBBQ
- ③ 社内でジビエ食堂を開催 (1回/年)



ジビエBBQ



2025年 大成ジビエ食堂ポスター 17

活動内容 2－研修(1)

- 目的

企業活動は自然資本に依存 → 自然資本を理解
現状の自然の理解 → 源流域自然保全の重要性を展開

- 実施回数

2023年

事務新入社員（計47名）

2024年

事務新入社員、社員公募、学生向け（計100名）

2025年

土木新入社員、社員公募、営業総本部新入社員、学生向け（計172名）

活動内容 2－研修(2)

- 研修内容

体験型研修

地域－ワサビ田の再生、水道管理路の保全

自然－源流体験

森林－伐採体験、間伐材移動と処分体験、

薪の製造体験、薪ボイラー見学、

地域性種苗採種と苗作り

生物－ジビエBBQ、鹿柵設置、魚捌き体験



土木新入社員研修 水道管理路の保全



公募型研修 伐採体験

活動内容 2-研修(2)

- 研修内容

座学研修

小菅村のサステナビリティ課題

グリーンインフラを進める地域の勉強会

廃館となった旅館の再生計画



サステナビリティ課題



旅館再生計画



グリーンインフラ勉強会

活動内容 3－地域振興

・実施内容

森林伐採や植樹

→地域林業家へ施業を依頼

木材製材

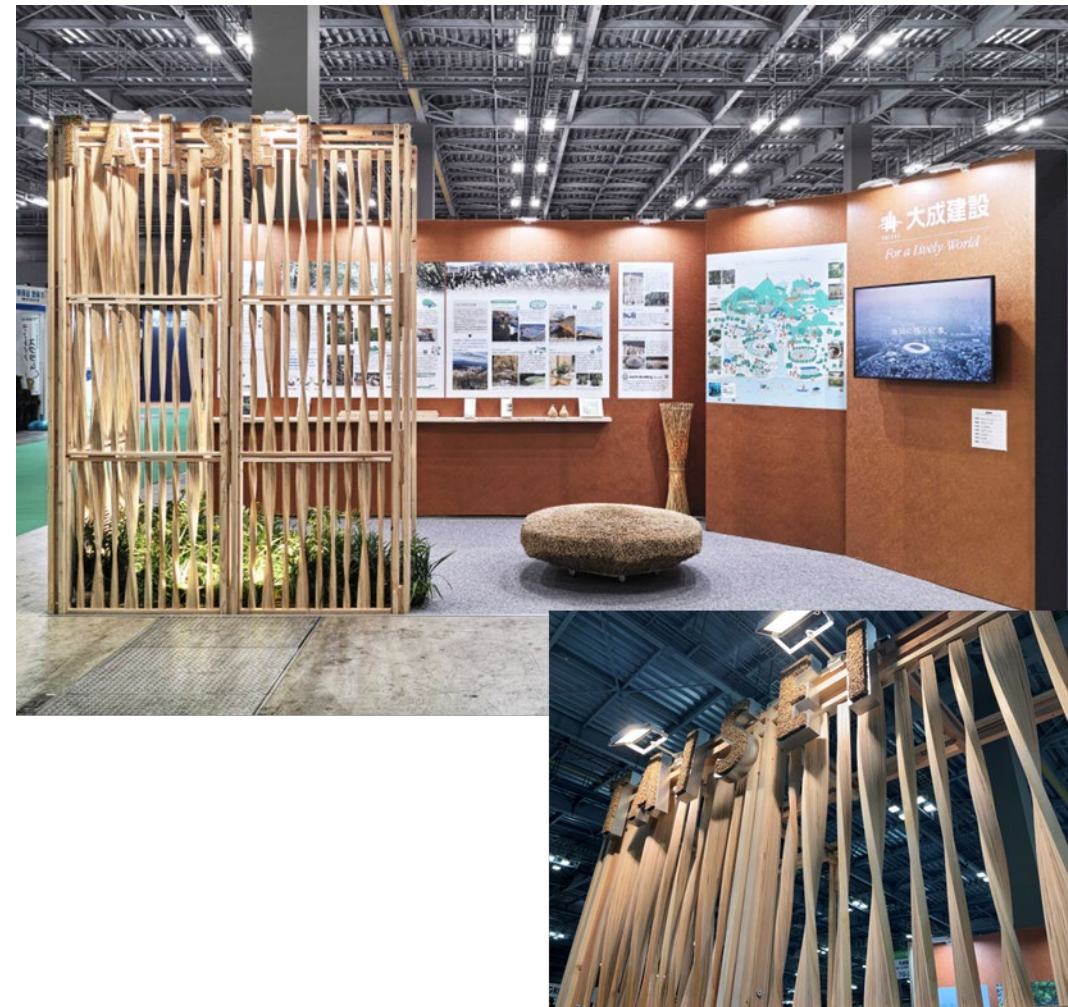
→対応可能な範囲で地域製材業者へ
依頼

研修

→企画・運営をNPO法人へ委託、
宿泊は全て小菅村内

認知の拡大

→小菅村での取り組みを展開



活動内容 3－地域振興

- 今後への発展

木材供給先の提案

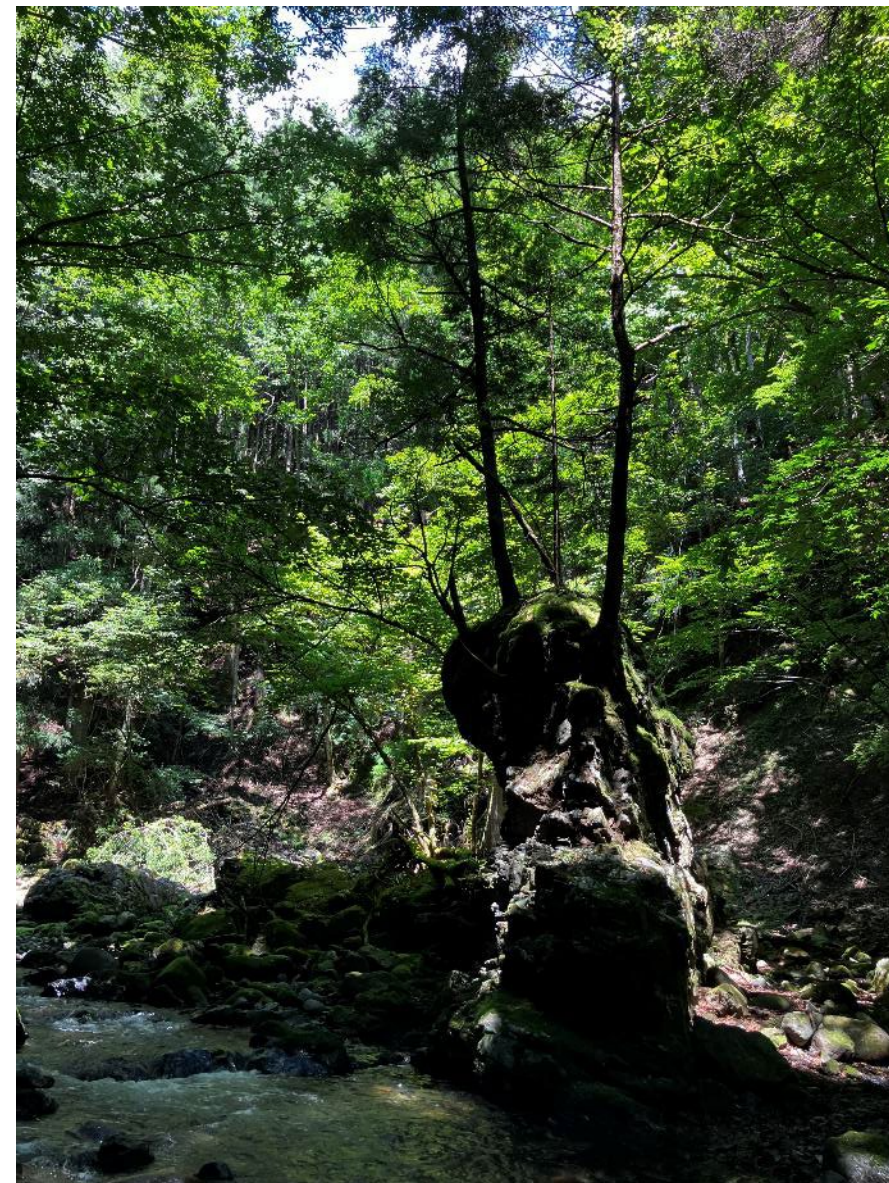
木材利用と並行して合板等メーカーを紹介し、当社利用工事以外での自由な取引へ繋げて伐採・植樹の活動を継続

自然林化活動と景勝地のさらなる発展

豊かな源流溪畔林を作り、水、生物にとってかけがえのない場所を創造



地域振興と環境保全・創出の好循環



課題

1.協定締結

2.木材流通



課題

1. 協定締結前の内容の具体化

関係者間の課題共有、対応方針協議

→締結前に調整されることが理想

明確な役割分担

→対応方針に基づく責任・役割区分、
特にコスト負担区分を明確にする

2. 木材流通

流通経路の最適化→複雑な流通

木材利用量の低迷



最後に

ご清聴 ありがとうございます



↑ 「大成建設(株) ネイチャーポジティブWEBサイト」 QRコード

